

「ものづくり」の精神にこだわり、 飽くなき探究心を持って

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

神戸製鋼グループは、第153期の上半期(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)におきまして、需要家の要請にお応えすべく高水準の生産を維持しながら、販売価格の改善に努めてまいりました。

鋼材につきましては、高級鋼を中心とした旺盛な需要により高水準の出荷が続き、販売価格の改善が進みました。また、機械分野では、国内の堅調な民間設備投資や海外における石油、LNG等エネルギー関連需要の盛り上がりを背景に、圧縮機や産業機械、エネルギー関連機器等の売上高が、好調に推移しました。

この結果、当上半期の連結業績は、売上高は7,895億円、営業利益は1,082億円、経常利益は854億円、税引き後の中間純利益は367億円となりました。

当期の中間配当につきましては、慎重に検討いたしました結果、財務基盤の強化の観点からその実施を見送らせていただくこといたしました。株主の皆様には、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

今後の見通しにつきましては、米国経済の減速懸念や原油価格の上昇によるインフレ懸念など不安要素はあるものの、国内の設備投資や個人消費は引き続き堅調に推移すると予想されることから、景気は拡大基調を維持するものと見込まれます。このような状況の中、当社グループは事業競争力の強化に向け、戦略的な設備投資の実行や「オンリーワン・ナンバーワン」製品の創出・育成などの施策に、重点的に取り組んでまいります。

なお、当社は、本年9月29日に公正取引委員会より、鋼製橋梁談合事件に関し排除勧告を受け、これを応諾いたしました。この事実を厳粛かつ真摯に受け止め、コンプライアンス体制の再徹底を重要な経営課題として、今後の再発防止に全力をあげてまいります。

加えて、環境、安全、防災といった観点にも十分配慮し、神戸製鋼グループ全体として社会的責任を果たしていく所存であります。

当社は、本年9月1日をもちまして創立100周年を迎えることができました。株主の皆様を始め、取引先、地域社会の方々など、創業以来、当社とご縁のある関係各位のご支援に対しまして、深く感謝申し上げます。

次なる100年に向けまして、「ものづくり」の精神にこだわり、飽くなき探究心を持って、需要家の皆様の様々な要請にお応えできる高機能・高品質の製品・サービスの提供を行ない、企業価値の更なる向上に努めるとともに、社会の発展に貢献してまいります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年11月



代表取締役社長

犬伏 泰夫